

令和3年度行政事業レビューシート (復興庁)

事業名	放射性物質による農畜産物等影響実態調査対策			担当部局庁	復興庁		作成責任者			
事業開始年度	平成24年度	事業終了 (予定)年度	令和7年度	担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)		参事官 伊地知 英己			
会計区分	東日本大震災復興特別会計									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災復興構想会議提言(H23.6.25) ・我が国の食と農林漁業の再生のための中間提言(H23.8.2) ・「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針(H28.3.11閣議決定) ・「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針の変更について(H31.3.8閣議決定) ・「第2期復興・創生期間」以降における東日本大震災からの復興の基本方針(R3.3.9閣議決定) 					
主要政策・施策	-			主要経費	食料安定供給関係					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	東日本大震災における原子力発電所の事故により、放射性物質が広範囲に放出されたことを踏まえ、放射性物質による農畜産物・特用林産物・農地土壌等への影響の実態を調査することによって、放射性物質による農地土壌等を通じた農畜産物等の汚染、食品衛生法上の基準値を超える農畜産物等の流通及び消費者への健康被害を未然に防止する。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	東日本大震災における原子力発電所の事故により、放射性物質が広範囲に放出されたことを踏まえ、農畜産物・特用林産物・農地土壌等の放射性物質濃度の調査(事務費)を実施する。									
実施方法	直接実施、委託・請負									
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	95	77	65	65	65			
		補正予算	▲ 14	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
	計		81	77	65	65	65			
	執行額		68	55	51	-				
	執行率 (%)		84%	71%	78%	-				
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		84%	71%	78%	-					
令和3・4年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目		令和3年度当初予算	令和4年度要求	主な増減理由					
	農畜産物・農地土壌等の放射性物質実態調査事務費		65	65	-					
	その他		0	0	-					
	計		65	65	-					
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	-									

定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由	定性的な成果目標と平成30～令和2年度の達成状況・実績								
	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	本対策は、放射性物質による農畜産物・特用林産物・農地土壌等への影響の実態を調査することにより、消費者の健康への悪影響の未然防止等に向けた取組の推進に資することを目標としており、数値化することは難しい。	各自治体の放射性物質検査や実態調査の円滑な推進に資する事を目標とする。なお、各年度において自治体から要望のあった検査については、全て実施している。							
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標	実績	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 7 年度	
	各自治体からの放射性物質の検査要望について、可能な限り要望どおり検査を受託して実施すること。	各自治体からの放射性物質の検査要望に対する検査受託実績の割合。	実績	%	100	100	100	-	100	
			目標値	%	100	100	100	-	100	
			達成度	%	100	100	100	-	100	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		実績	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度 活動見込	4年度 活動見込	
	農畜産物・特用林産物・農地土壌等における放射性物質濃度の把握(検査点数)	活動実績	点数	8,866	7,837	6,733	-	-		
		当初見込み	点数	13,972	9,921	8,232	8,743	-		
単位当たりコスト	算出根拠		実績	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込		
	執行額/検査点数 (検査点数は、農畜産物等の放射性物質濃度等を検査した点数)	単位当たりコスト	円	7,663	6,947	7,539	7,317			
		計算式	円/点数	67,940,014/8,866		54,442,657/7,837		50,759,968/6,733		
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	1食料の安定供給の確保								
	施策	④食品の安全確保と消費者の信頼確保								
	政策評価	測定の指標	定量的指標	実績値	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		-	-	実績値	-	-	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	東日本大震災における原子力発電所の事故により、放射性物質が広範囲に放出されたことを踏まえ、放射性物質による農畜産物・特用林産物・農地土壌等への影響の実態を調査することによって、放射性物質による農地土壌等を通じた農畜産物等の汚染、食品衛生法上の基準値を超える農畜産物等の流通及び消費者への健康被害を未然に防止に向けた取組の推進に寄与する。									
	新経済・財政再生計画改革工程表 2020	取組事項	分野:	-						
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)	単位	計画開始時 - 年度	2年度	3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
			-	成果実績	-	-	-	-	-	
目標値				-	-	-	-	-		
達成度		%		-	-	-	-			
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)	単位	計画開始時 - 年度	2年度	3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
		-	成果実績	-	-	-	-	-		
	目標値		-	-	-	-	-			
達成度	%		-	-	-	-				
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係										
-										

事業所管部局による点検・改善

事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	福島県をはじめ各自治体から農畜産物等の放射性物質等の実態調査にかかる経費について国が負担すること等の要望・意見があり、国民のニーズに応えたものである。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針等に基づき国が実施すべきものである。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	閣議決定されている「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針に基づく事項のため、優先度は高い。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	本事業では、一般競争入札7事業全てで複数者の入札があり、適切な競争がなされた。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は、福島県及びその周辺において、食品衛生法の基準値を超えた農畜産物の流通及び消費者への健康被害を防止するものであり、国民全体が受益者であることから、負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	契約に当たっては、一般競争入札等競争性を確保することで単位当たりコストを妥当な数値に抑えるように努めている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	資金の中間段階での支出はない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	費目・使途は、事業目的である農畜産物等の放射性物質の分析に即したものに限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	△	入札における競争性の高まりにより検査単価が低下したことによるものである。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	繰越額はない。
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	入札において競争性が確保できるよう発注内容や業務量を考慮している。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	各自治体から要望のあったものは全て検査を実施し、基準値を超える農畜産物等の流通を未然に防止できていることから、目標に見合ったものとなっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	消費者への健康被害等の防止のためには、放射性物質濃度の調査を実施することが最も効果的である。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	各自治体から要望のあった全ての検査を実施できているので、十分な活動実績となっている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	基準値を超える農畜産物等の流通を未然に防ぐことにより、消費者の不安の払拭に繋がっており、成果は十分に活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	○	・本事業では、国産農畜産物や農地土壌等にかかる放射性物質のモニタリング検査や実態調査を実施。
	所管府省名	事業番号	事業名
	復興庁	20 - 0063	輸入食品の監視体制強化等事業
	復興庁	20 - 0107	放射性物質影響調査推進事業
	復興庁	20 - 0081	福島県農林水産業再生総合事業
			・輸入食品の監視体制強化等事業は、各自治体の実施している食品中の放射性物質のモニタリング検査を検査所等が受け入れすることで検査を補完している。
			・放射性物質影響調査推進事業は、大臣管理漁業等で漁獲される回遊性魚種等を中心に放射性物質調査を実施している。
			・福島県農林水産業再生総合事業のうち「ふくしまの農林水産物等緊急モニタリング事業」は、国のガイドラインに基づく福島県農林水産物等の放射性物質の検査を支援している。
点検・改善結果	点検結果		・「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針等に基づき、福島県をはじめ各自治体から農畜産物等の放射性物質等の実態調査にかかる経費について、国が負担すること等の要望・意見があり、国民のニーズに応えたものといえる。また、各自治体の要望に応じて、農畜産物等に関する検査等を実施し、食品衛生法上の基準値を超える農畜産物等の流通及び消費者への健康被害を未然に防止できていることから、事業目的を達成している。
	改善の方向性		・各自治体が放射性物質検査計画作成の元とする「検査計画、出荷制限等の品目・区域等の設定・解除の考え方」(原子力災害対策本部策定)の改正内容、各自治体の検査実績及び検査要望等を踏まえ、基準値を超える食品の流通を防ぐため各自治体が必要としている検査が、引き続き適切に行われるよう、必要な支援を実施する。 ・基準値を超える事例が少なくなってきたことから、各自治体と今後の検査体制のあり方を調整し、事業終期について検討する。

外部有識者の所見

放射性物質による調査は長期間にわたることが想定されるため、各自治体の要望を適確に吸い上げ、適切な予算規模となるように検討すること。

行政事業レビュー推進チームの所見

現状通り

的確なニーズ把握に努め、適切な予算規模となるように精査すること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り

各自治体の要望を適確に吸い上げ、適切な予算規模となるように精査した結果の要求額としている。

備考

-

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-			
平成23年度	-			
平成24年度	53			
平成25年度	084・新25-040			
平成26年度	107			
平成27年度	0108			
平成28年度	0100			
平成29年度	0082			
平成30年度	0080			
令和元年度	復興庁 - 0084			
令和2年度	復興庁 - 0082			

